

立川市子ども未来センター(東京都立川市)

作成時点：2025年12月

立川市の旧庁舎施設等活用事業

旧庁舎 ▶ 市民交流施設

基本情報



写真出所：合人社計画研究所グループ

位置図

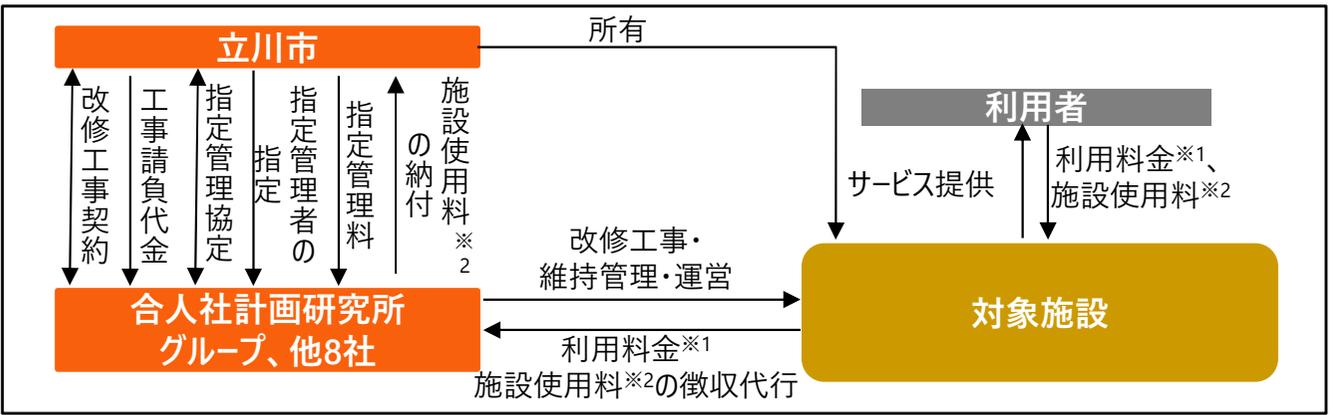
立川市錦町3丁目2番26号



出所：「航空写真」(地理院地図 / 国土地理院) を事務局にて一部加工して作成

| | |
|------------|--|
| 事業主体 | 東京都立川市（人口：187,426人 ※2025年12月現在） |
| 事業手法 | 指定管理者制度 |
| 民間事業者の業務内容 | ・改修工事及び維持管理・運營業務 |
| 事業期間 | ・ 第1期：13年間（2011年9月～2024年3月） ・ 第2期：5年間（2024年4月～2029年3月） |
| 事業費等 | ・ 施設改修費（立川まんがぱーくを除く部分）：約800百万円（立川市全額負担） （うち補助金等：約10百万円） ※立川まんがぱーく部分は事業者の自主事業のため、全額事業者負担 ・ 指定管理料 約1,478百万円（11年間） |
| 活用した補助金 | ・ 安心子ども基金交付金（都補助金） 9,825,000円 |
| 事業者 | 合人社計画研究所グループ（構成企業9社） |
| 事業経緯 | ・ 2011年03月 公募開始 ・ 2011年04月 事業者選定 ・ 2011年09月 基本協定締結 ・ 2011年10月 改修工事契約締結 ・ 2012年11月 指定管理協定の締結 ・ 2013年03月 全館開業 |

事業スキーム図



※1 利用料金は立川まんがパーク部分に採用している利用料金制度における利用料金を指す。
 ※2 施設使用料は立川まんがパークを除く部分で採用している地方自治法で定められる使用料を指す。

掲載内容に関する問合せ先
 立川市 文化スポーツ部 地域文化課
 TEL：042-506-0012（直通）
 Email：chiikibunka-t@city.tachikawa.lg.jp

立川市子ども未来センター(東京都立川市)

作成時点：2025年12月

立川市の旧庁舎施設等活用事業

旧庁舎

市民交流施設

検討経緯

- 立川市役所旧庁舎敷地の利活用を検討する市民100人委員会にて、立川市役所新庁舎移転後の地域の賑わいについて危惧する声上がり、旧庁舎の跡地活用について立川駅南口周辺まちづくり協議会にて検討を始めた。
- 市は「コスト縮減」・「ストックの有効活用」・「環境負荷の低減」を重視し、第1庁舎は老朽化し耐震性にも欠けていたため解体のうえ跡地活用することとし、第2庁舎は耐震補強をおこなったうえで改修利活用することとした。
- 旧庁舎敷地及び周辺の国有地を中心とする地域の継続的なまちづくりの基本的な考え方を示した「旧庁舎周辺地域ランドデザイン」に則った包括的な施設活用を公募し、2013年に全館開業した。

取組のポイント

- 改修工事に伴う資金調達は地方公共団体が行ったものの、改修工事・管理運営を一括で発注したことで事業期間の短縮につながった。
- 公共施設として採算性を向上させるよりも、子育て支援や文化芸術活動の支援といった公共機能が求められると判断したことから指定管理制度を選択した。
- 公募にあたっては、市民意見を踏まえた「広場」や「子育て支援」など最低限の機能だけを施設の要求水準として提示。余ったスペースの活用方法は、民間事業者から自由な提案を受けける仕組みにした結果、行政内部からは出難い「まんが」をテーマにした斬新な活用提案（立川まんがぱーく）を実現させた。
- また、事業者に対しては「子育て支援」や「文化・芸術活動の支援」の実施を義務付けず、収益性の観点等から事業者が対応できない場合は市が実施することにした。これにより、事業者が参入しやすい環境を整えた。

得られた効果

- 施設の年間来場者数はピーク時で70万人となっており、特に立川まんがぱーくは立川市を代表する観光スポットとして地域の賑わい拠点となっている。
- 市民活動団体によるプログラムが年400回以上、地域子育て世代を対象としたイベントが年150回以上で展開されており、地域コミュニティの活性化に貢献している。

利活用前



利活用後



(改修後の外観)



(オフィスや会議室等→立川まんがぱーく)



(機械室→スタジオ)



(イベントの様子)

写真出所：合人社計画研究所グループ、立川市